

令和2年度

中津市総合教育会議

令和3年2月8日

ICT教育の推進



GIGAスクール 構想とは

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。これまでの教育実践と最先端のICTの融合を図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

1 中津市の目指す学びの姿

これまでの教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層充実
主体的・対話的で深い学びの視点
からの授業改善

○ICTを活用した授業の日常化

- ・タブレットを文具のように、いつも活用する道具として使用
- ・各学級でタブレットを活用した授業を1日2回～3回実施(令和3年度目標)

○個に応じた学び、協働的な学びの実現

- ・各自の興味・関心を深める調べ学習や、学習状況に応じた課題への取組
- ・各自の考えや意見を即時に共有し、多様な考えに触れる協働学習

○臨時休業時及び長期欠席児童生徒の学びの保障

- ・学習ソフトを活用しての個別学習の実施
- ・オンライン授業を通じた教室とつながる学び

2 今後の取組方針

基本方針1

子どもたちの情報活用能力の向上

(1) ICTを活用した多様な学びの推進

- インターネットの活用(情報の収集・選択)
- 写真による伝達の工夫(情報の共有)
- 動画による動きの確認(情報の再生)
- プレゼン機能の活用(表現力の向上)
- 遠隔授業等の実施(他者とのつながり)
- 学習ソフトを活用した復習(個別学習)
- プログラミング学習の充実(論理的思考)
- 情報モラル教育の充実(トラブル回避)

基本方針2

ICT活用指導力の向上

(2) 学校の教職員の資質向上

- 子どもたちの情報活用能力を育成する授業づくりのための研修の充実
- ICTを活用した授業実践事例の共有
- ICT支援員による授業支援の実施
- 情報モラル向上のための研修の充実

現在の整備状況

- 1人1台のタブレット端末及び1人1本のタブレット用タッチペンの整備
- 普通教室、特別教室、体育館への無線LAN設置
- 普通教室への充電保管庫設置、大型提示装置の整備

基本方針3

ICT機器等の環境整備

(3) 学校におけるICT活用のための環境整備

- 学習環境と教育の質の向上に向けた環境の整備・充実を推進
- 児童・生徒への授業支援のためのICT支援員の派遣
- GIGAスクールサポーターによる機器及び学習ソフト等の管理
- デジタル教科書の実証実験への参加
- オンライン授業時の著作権対応

3 今後可能となる学び

「1人1台端末」ではない環境(現状)

一斉学習

- ・教師がプロジェクター等で説明し、子どもたちの興味関心意欲を高めることはできる。

個別学習

- ・全員が同時に同じ内容を学習する。
(一人一人の理解度等に応じた学びは困難)

協働学習

- ・グループ発表なら可能だが、自分独自の意見は発信しにくい。(積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に)

学びの
深化

学びの
転換

「1人1台端末」の環境(整備後)

- ・教師がタブレットで資料を配付し、子どもたちがタブレットを介して自分の考えを教師に提出することで、教師は子どものつまづきをすぐに把握することができる。
- ・教師の問いかけに対する全員の反応をすぐに共有することができる。

- ・一人一人が、自分に必要な情報を独自に収集し学習に役立てることができる。
- ・学習支援ソフト等を活用し、一人一人が同時に別々の内容を学習できる。
(各人の学習履歴が記録される。)

- ・一人一人が記事や動画等を集め、友だちや教師とデータのやり取りをすることができる。
- ・各自の考えを即時に共有し、共同編集ができるようになる。
- ・全ての子どもが情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる。

日常の学習での活用例(総合的な学習の時間):「中津の偉人を紹介しよう」

- 班ごと(複数人)に調べてみたい偉人について意見交換をし、1人に絞り込み、1台のタブレットで情報を集める。

- 班で集めた情報からどの資料を使うのかを話し合い、代表者がタブレット操作を行い、紹介プレゼンを作成する。



- クラス全体で班ごとに発表し、考えを深める。

- 個人ごとに調べてみたい偉人を決め、タブレットで情報を集める。
(複数人の偉人の情報を集め、選択することも可能。)



- 個人で集めた情報から資料を選択し、一人一人が自分のタブレットで紹介プレゼンを作成する。
(資料選択の段階で友達との情報共有を行い、資料を送りあうことも可能。)

- クラス全員の作成した紹介プレゼンを、個人のタブレットで全員分共有することができる。
クラス全体での発表や個別の発表が可能になる。自分の作品として、学びを残すことができる。
(自分の作品と比較することができ、質問や意見交換が活発になる。)

未来づくり ほめまち中津の家庭教育



親子の良好なコミュニケーションにより、子どもの自尊感情を高め、子どもの夢を応援する家庭づくりを学校、家庭、地域、行政の協働により目指す。

ほめあうまち なかつ (H28~R1)

「ほめて、認めて、励ます」コミュニケーションにより、認め合い、支えあう学校、家庭、地域づくり



ほめまち中津の「家庭教育/ススメ」の作成 (R2)

- 中津市PTA連合会との協働
- 中津市教育スーパーアドバイザー 菊池省三氏による指導、監修



啓発・活動

ほめまち中津の「家庭教育/ススメ」
小中学生の全家庭に配布 (R3)

中津市PTA連合会

ほめまち中津の「家庭教育/ススメ」を活用した取り組み (R3~)

理解
しよう

信じ
よう

目を向
けよう

受けと
めよう

つなが
ろう

<活動例>

- ・スマホ実態調査
- ・家庭の仕事についての親子ワークショップ
- ・親子で読書、親子で音読、読み聞かせ
- ・おうちであいさつプラスワン
- ・親子地域学習

協働

学校教育

社会教育
菊池先生

子育て支援

「おおいた教育の日」 中津会場 (R4,11,1)

<テーマ>

諭吉の里発 ほめまち中津
の家庭教育 (仮)

勇退記念
プロジェクト

■家庭教育の重要性

家庭は子どもたちの健やかな成長の基盤であり、家庭教育は全ての教育の出発点である。（文科省）

■現状と課題

家庭を取り巻く社会の現状

- ・情報化の進展
- ・就労状況の変化
- ・核家族、一人親家族の増加
- ・地域とのつながりの希薄化

中津市の現状

■中津市における家庭教育の位置づけ

中津市総合計画「未来づくり」

中津市教育大綱
(中津市教育振興基本計画)

なかつ子ども・子育て
支援事業計画

中津市PTA連合会
と連携強化 (R2~)

「ほめあうまち」
の推進 (H29~)

親子の関係

Q, 親と学校での出来事について話をしますか・・・

「あまり話さない、まったく話さない」と回答

	年度	中津市	大分県	全国
小学6年	R1	24%	23%	23%
中学3年	R1	28%	22%	23%

Q, 親と進路などの将来のことについて話すことがありますか

あまりしていない、全くしていない 小6 (46%) 中3 (16%)

Q, スマホの使い方について、親との約束を守っていますか

あまり、守っていない、約束がない 小6 (23%) 中3 (34%)

Q, 家でテレビを見たりゲームをする時間などのルールを親と決めていますか

あまり、全く決めていない 小6 (37%) 中3 (64%)

子ども

Q, 将来の夢や目標を持っていますか・・・

「どちらかといえば持っていない、持っていない」と回答

	年度	中津市	大分県	全国
小学6年	R1	20%	19%	19%
中学3年	R1	34%	25%	26%

Q, 自分には、よいところがあると思いますか・・・

「どちらかといえばない、ない」と回答

	年度	中津市	大分県	全国
小学6年	R1	16%	16%	16%
中学3年	R1	35%	28%	29%

親子のコミュニケーション不足、自尊感情の低さ、希望が持てないなど、気になる回答をした児童、生徒が1/3いる。

■目指す家庭像

親子の良好なコミュニケーションにより、子どもの自尊感情を高め、子どもの夢を応援する家庭

「家庭教育ノススメ」作成



家庭教育の大切さを訴えた福沢諭吉

福沢諭吉は、「人としての基礎は、家族団欒から自然に身につくのがよい。」と論じています。家族団欒に適した話題を掲載した雑誌『家庭叢談』の刊行以降、「家庭」という言葉が広く使われるようになりました。

ほめまち中津の「家庭教育ノススメ」

ほめあうまち なかつ 推進事業



理解しよう

理解しよう子どものことを
伝えよう 親の気持ち



スマホ、ゲーム、夢など、子どもが興味や関心があるものについて笑顔で話し合ってみませんか？

信じよう

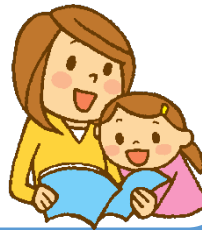
信じよう 任せよう
ほめてつけよう 子どもの自信



基本的な生活習慣はほめることで自信につながります

目を向けよう

親子一緒に
ほめて 学んで 達成感



テストの点に表れないこともあります。日々のがんばりに目を向け、子どものやる気に働きかけましょう

受けとめよう

親子で共感！
小さな変化を受けとめよう

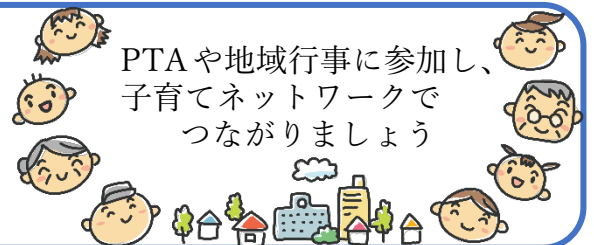


日々の子どもの様子や言葉に気を配り、心と体の小さな変化を受けとめましょう

つながろう

ささえ愛
子どもでつながる P.T.C.A

※P（保護者）T（先生）C（地域）A（組織）



PTAや地域行事に参加し、子育てネットワークでつながりましょう

だいじなのは
コミュニケーション

ちゃ！



中津市 PTA 連合会作成

令和2年12月 完成

新たな社会 幅広いニーズに対応する 中津市立中学校標準学生服について

社会のニーズ ～保護者や生徒、教職員の声～

- ①機能性の向上・・・スカートは自転車に乗りづらい、動きづらい(姿勢の維持)
学生服は体温がこもる、詰襟が苦しい
- ②人権的な配慮・・・選択肢の幅を広げて欲しい
- ③防寒・健康面・・・冬にスカートは寒い 等





新たな中津市標準
学生服の検討

目的：現在の社会情勢や学校・保護者から寄せられる制服に対する意見を踏まえ、機能性の向上や人権的な配慮等の視点から検討することにより、中津市内の中学生にとって望ましい制服の取扱い方針を明らかにする。

※令和4年からの導入を目標に、令和3年度から下記内容で検討していきたい。

【導入までの具体的スケジュール計画】

年 度	計 画	概 要
R3年度	<p>検討会議の実施</p> <p>検討委員(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校長(2名) ・校長会長・生徒指導担当 ○有識者 (2名) ・大学教授 ・人権問題等に係る有識者 ○中津市PTA代表(2名) 	<p>令和3年度 検討会議の概要</p> <p>第1回 検討会議 4月 ・趣旨説明 ・アンケート実施にむけて</p> <p>第2回 検討会議 6月 第3回 検討会議 7月 第4回 検討会議 8月</p> <p>【検討会議で協議】</p> <p>※2,3年生は既存の学生服とするかどうか。 ※新1年生については既存の学生服との選択制にするかどうか。 ※移行期間、完全移行年度の設定を設けるか。</p>
R4年度	<p>中津市新学生服(新1年生)導入</p> <p>ブレザー制服のイメージ</p>	 

なかはくの魅力アップと知名度アップを目指して

【目標】博物館としてのクオリティを保ちつつ、民間活力の導入及び博物館の枠にとらわれない活動の推進と知名度向上
⇒市民が企画・運営にかかわる“参加型なかはく”の推進と“観光地”としての浸透

(1) 企画展への参加

- ・無料エリア展示企画の公募を行う。
(図書館のアートスペース中津は公募で2週間開催)



例：詩太さんの個展
ワークショップ

- ・期間は1ヶ月程度。
- ・一定のクオリティを求める。
- ・展示に関連したワークショップや実演等の実施も可。
- ・他の企画展との調整が必要。

博物館がアーティスト
の表現の場に

(2) 祭礼行事関係者の参加

- ・伝統行事や祭礼の展示、お披露目の場の提供。
- ・実績：中津祇園、鶴市傘鉾、豊前神楽
- ・市内全域の祭りを対象とする。



博物館が伝統行事の継承の場に

(3) イベント企画・運営への参加

- ・無料エリア（ロビー、眺望ラウンジ、カフェ、プレイスタジオ、お祭りギャラリー、屋外）の活用。



- ・「クリスマスマルシェ」や「古代フェス」のように、民間にイベントやワークショップの企画運営をまかせる。集客につながるから場所代は無料とする。

- ・石垣ライトアップ設備が整い、今後は夜のイベント企画の幅が広がる。石垣まで含めたエリアでの活用を提案。博物館もナイトミュージアムの開催等で協力する。

- ・古代フェスのように、市民が展示や中津の文化財をモチーフに作品を制作販売する流れをつくる。

博物館をイベントスペース・
商品開発の場に

(4) 旅行関係へのPR

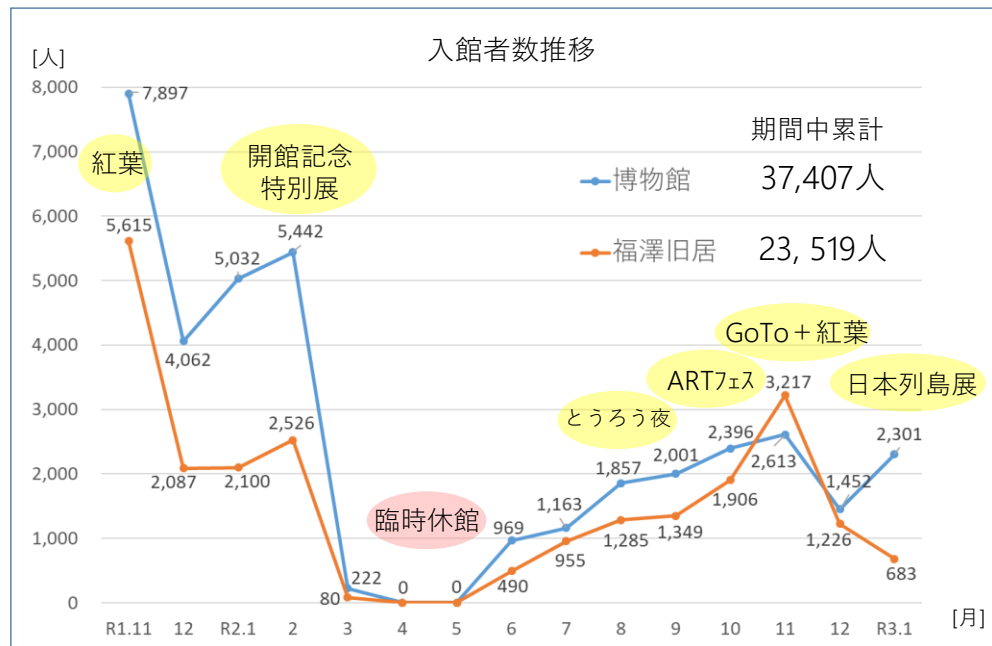
- ・なかはくで知識を得ることで中津観光が楽しくなる。⇒「旅の始まりはなかはくから」の浸透。
- ・文化施設としてだけでなく、「中津の観光地」として扱う。⇒観光部局との連携強化。
- ・石垣が見えるロケーションをいかして、中津城とセットの観光資源としての情報発信。



観光地イメージの浸透

事業実績

当初年間入館者数目標：35,000人(当時の福澤旧居の入館者数を参考)
開館(R1年11月)からR3年1月までの入館者数(実質12カ月)：36,694人



新型コロナウイルスの影響により入館者数は大幅減となっているが、福澤旧居の入館者数を目標とした当初の計画は上回っている。

当初の入館者数目標は達成

企画展やイベント実施日は入館者が多い。
「発掘された日本列島」展を実施したR3.1は、他の観光施設の入館者数が新型コロナウイルスの第3波により軒並み減となっている中で、前月と比べ大幅に増となっている。

GoToトラベルと紅葉シーズンが重なったR2.11は福澤旧居と比べて来館者が少ない。旅行会社や県外での知名度が低いことが予想される。

主な企画展・イベント



開館記念官兵衛論吉特別展

令和2年1月18日(土)～3月1日(日)
官兵衛の兜(白檀塗合子形兜)などを展示。
入館者数：8,409人
→初の特別展+官兵衛の兜展示で多数来館



中津ART!ART!ART!フェスティバル

令和2年9月26日(土)～11月10日(火)
博物館を美術館へ全館展示替え。ロビーにて若手アーティストによる個展を同時開催。
入館者数：4,402人



ナイトミュージアム 野外展示

令和2年9月26日(土)
石垣を取り込んだ展示空間を作った。家族連れやカップルが多く訪れた。
参加者数：558人
→館内外で開催した光のアートが人気をよんだ。



なかはくクリスマスマルシェ

令和2年12月12日(土)
民間主導で雑貨・服などの6店舗とフードの4店舗が出店。石垣ライトアップ点灯式実施。
入館者数：543人(12月の入館者数の3/1)
→博物館+光のイベント+マルシェが新しいオシャレな空間となった。



発掘された日本列島2020展

令和3年1月16日(土)～2月21日(日)
文化庁主催の全国巡回展。
地域展「中津城の堀底を歩こう！」を実施。
入館者数：1,843人(1月末まで)

出張！古代フェス in なかはく

古代をモチーフとしたグッズの制作や、ワークショップ、トークイベントを民間主体で実施。大好評でイベントは全て満員。
→展示と連動したグッズ販売やイベントで、発信力が増した。積極的なSNSの活用も。

魅力ある企画展やイベントの実施、知名度向上のための活動が必要